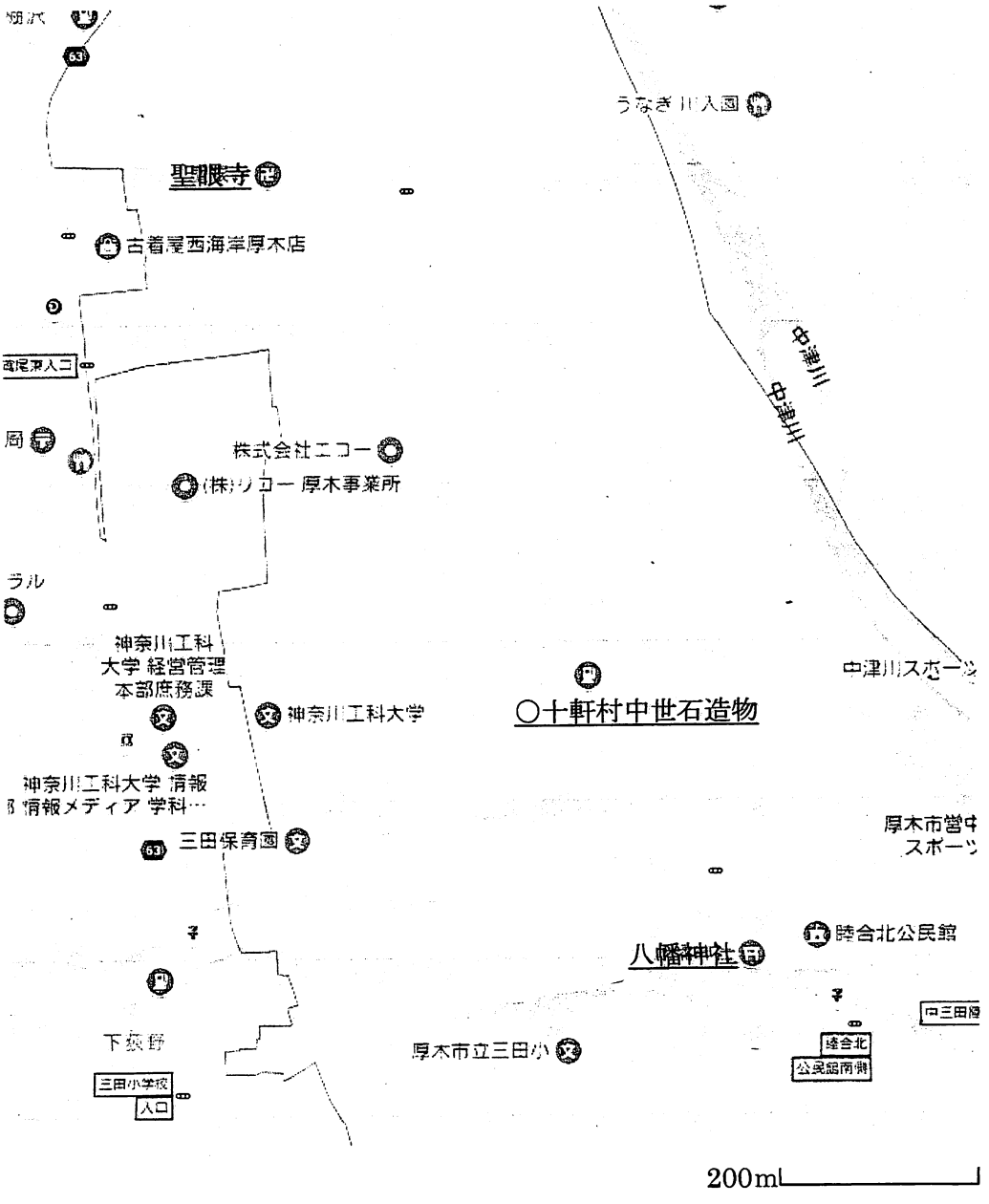
県央史談会史跡めぐり

厚木市三田方面

—厚木市民文化祭参加事業・あつぎの文化財一般公開—

平成 29 年 10 月 29 日（日）



コース

八幡神社～十軒村中世石造物～聖眼寺観音堂

三田村

『新編相模国風土記稿』によれば、建久(1190～1199)の頃は安達藤九郎盛長が領主と言い伝える。文和(1352～1356)の頃は鎌倉覚園寺の所領。元年6月将軍尊氏当所に制札を下す。天文(1532～1555)の頃は越智弾正忠が知行する。近世初期は弓気多昌勝が上三田(元禄11年・1698まで)、川口近次が中三田（元禄7年・1694まで)、川村重久が下三田(元禄11年まで)を知行、その後関宿藩、間部詮房、松永藩、荻野山中藩と変遷し、荻野山中県から足柄県へ(明治4年・1871)、神奈川県(明治9年・1876)となった。明治22年（1889）「三田村外五ヵ村組合」、昭和21年睦合村大字三田、昭和30年厚木市大字三田となる。

八幡神社

村の鎮守。安達藤九郎盛長勧請するという。天正19年(1591)社領1石5斗の御朱印給う。末社は若宮八幡・春日・道祖神・稲荷（『新編相模国風土記稿』）

本殿　厚木市指定文化財

一間社流造　元禄3年(1690)

屋根　柿葺

軒　　二軒繁棰

妻飾　虹梁大瓶束拳鼻付、笈形付

組物　出組、拳鼻付、菱支輪

縁　　縁束に差肘木で縁葛を受ける

・桁行6尺、梁行5尺。木部は朱塗で、彫刻や支輪、斗栱は極彩色。中備は蟇股で背面の脚間はみみずくの彫刻。脇障子は右に麒麟、左に鳳凰の透彫がある。水引虹梁・妻虹梁の絵様は細くのびやかな彫の浅い渦と若葉。妻飾の笈形も単純な渦の絵様。

・扉金具の銘「可さ里や　新戸村久兵衛利重」

相模原市磯部の八幡宮(享保18年・1733)扉金具陰刻銘に「新戸村飾や石川久兵衛利重七十八才作」とある。

・裏面羽目板右下に「[　] 明□画「藤原」」の落款がある。

戒善寺涅槃図（安永2年　1773)「狩野洞春義信門人　難波洞雪藤原美明敬画　藤原の印」

本照寺涅槃図（年月不詳）「狩野洞春義信門難波洞雪藤原美明敬画□□」

狩野洞春は狩野益信に始まる駿河台狩野派の4代

・棟札

①明暦4年（1658）8月

②元禄3年（1690）4月　現殿のもの

③安永4年（1775）4月

④文久4年（1864）3月　覆殿・幣殿・拝殿

⑤昭和41年（1966）5月　覆殿・幣殿・拝殿

（表面）

和光同塵　庚
結縁之始　于時元禄三年
進神大施主川口長三郎（政重）
奉再興八幡宮一宇国家如意長久処　神主　大沢近江
大工　高木半左衛門
八相成道　午　四月十八日
（愛甲郡三増村　愛甲郡）
利物之終　三増瀬村
大工　宮本清兵衛

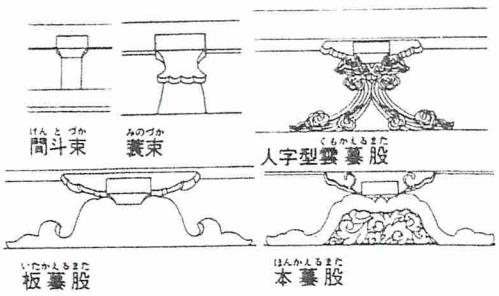
鍛冶（通）小嶋清兵衛
小嶋長衛門
井上三郎兵衛

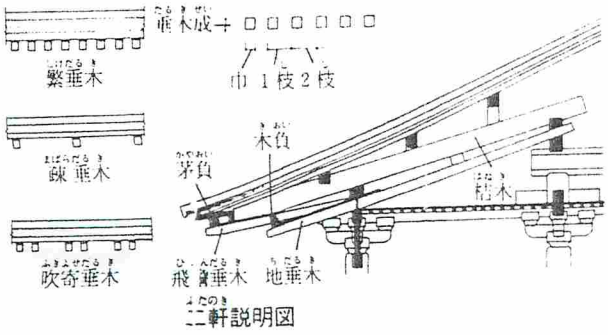
（裏面）

相陽愛甲郡毛利庄三田ノ郷

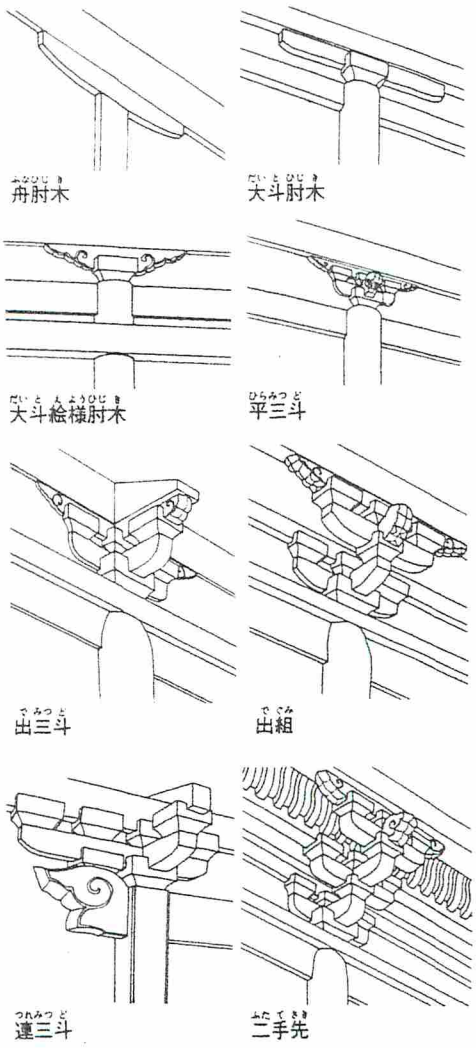
氏子

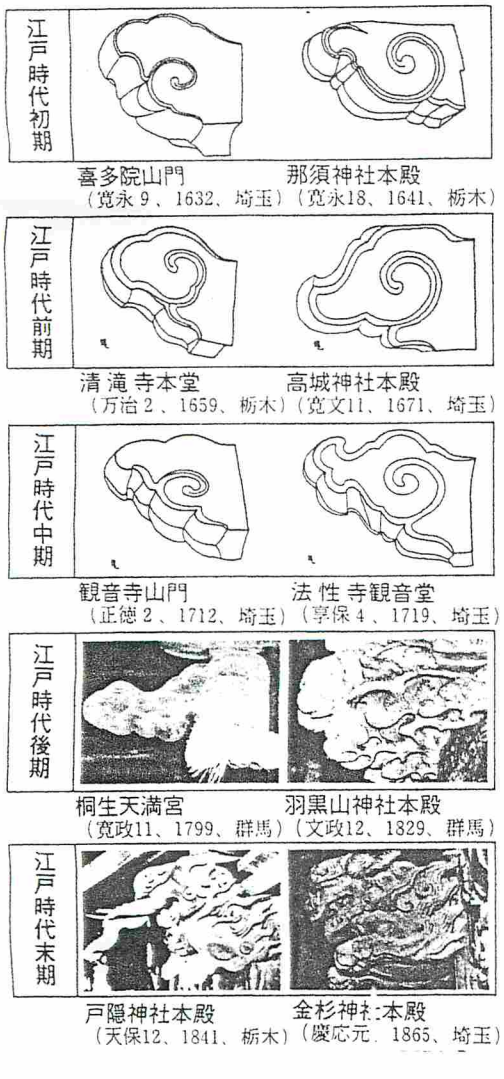
744　元禄3年(1690)4月　三田村八幡社再興大施主川口長三郎棟札　（三田　八幡神社蔵）

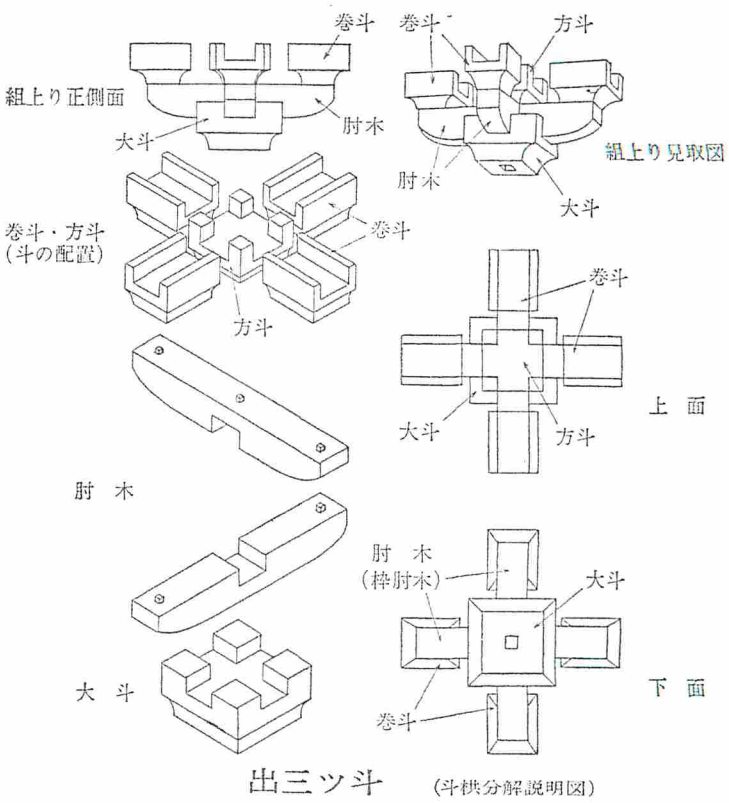




二軒説明図







出三ツ斗　（斗栱分解説明図）

十軒村中世石造物

安達藤九郎盛長墓と伝える。

宝篋印塔、五輪塔が並ぶ。宝篋印塔は基礎・塔身・屋根・相輪からなる塔である。その名の由来は塔身などに「一切如来心秘密全身舎利宝筐院陀羅尼経」を納入することからきている。五輪塔は仏教の宇宙は地・水・火・風・空の五元素から形成されているという考えに基づき立体的に具象化された塔である。

ここには合わせて 6～7 基が造立されていたとみられる。在銘は一基のみ（基礎部）で他は無銘。

・銘　「昭林禅門　応永廿五年二月三日」。応永25年は1418年。また、梵字を刻むものがある。

・金剛界四仏　東は阿閦・ウーン、南は宝生・タラーク、西は弥陀・キリーク、北は不空成就・アク。金剛界五仏は中央に大日如来・バンを加えるが、石塔の場合は塔身自体を大日と見立てる。胎蔵界四仏は東は宝幢（ほうとう）如来・ア、南は開敷華王（かいふけおう）如来・アー、西は無量寿如来・アン、北は天鼓雷音（てんくらいおん）如来・アク。

・設置の方向　宝篋印塔、五輪塔ともに東の発心門が正面となり、時計方向へ南・修行門、西・菩提門、北・涅槃門となる。また、東は春、南は夏、西は秋、北は冬を表し、色に直すと、東は青、南は朱、西は白、北は玄（黒）、中央は黄を表す。

・『新編相模国風土記稿』記載

（飯山村　金剛寺）

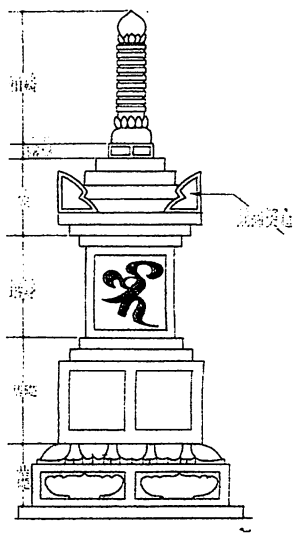
安達藤九郎盛長墓　五輪の塔なり、梵字を刻す、寺伝に法名盛長院三空道無大居士と号す、治承の頃盛長当所に来り霊地なるを感じ、卒後其遺骨を送りて葬すという、三田村にも盛長の墓あり

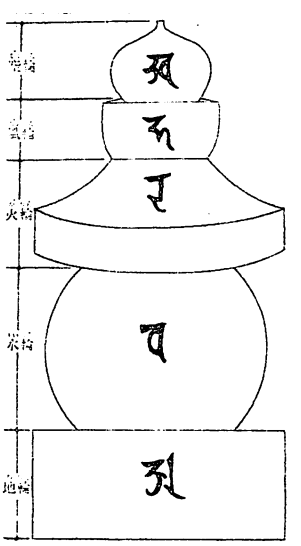
（三田村）

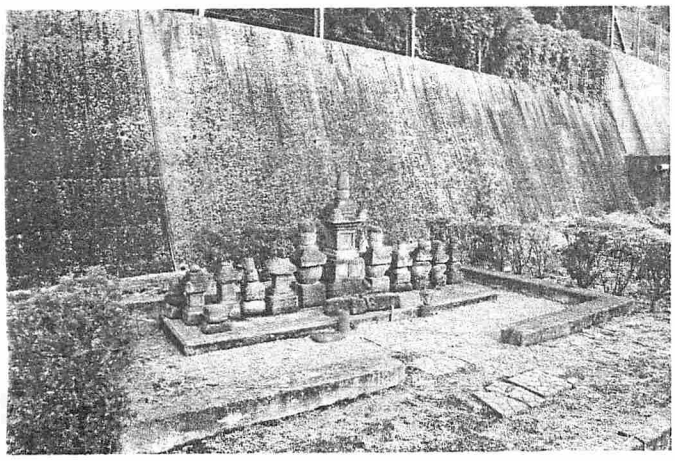
安達藤九郎盛長墓　村の西界民家の背にあり、五厘の塔なり、文字剥落して読べからず、盛長当所を領せしと伝うれば、土人追福の為に建しものなるか、飯山金剛寺にも盛長の墓あり、盛長は頼朝創業の功臣なり、晩年雑髪して蓮西と号し、正治二年四月二十六日年六十六にして卒す、事跡は鎌倉甘縄の宅跡に詳載す、傍に三四基の古碑並び建り

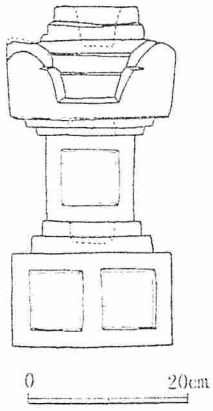
・安達藤九郎盛長

伊豆配流の頼朝の挙兵に伴い、東国武士の召集に当たり、最側近であった。頼朝死後は出家して蓮西と名乗る。頼家の 13 人の合議制の一人となる。正治 2 年（1200）死去。



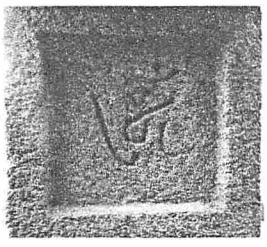






（第一面向って右側一区）昭林
（同左側一区）禪門
（第二面右側一区）應永
（同左側一区）廿五
（第三面右側一区）年二
（同左側一区）月三日

（『厚木市史　中世資料編』）



聖眼寺

『新編相模国風土記稿』　東宝山観音院と号す。古儀真言宗、高座郡河原口村惣持院末、開山は智證大師、本尊は智證作の長二尺一寸の不動を置く。観音堂は智証作の長二尺の千手観音と同じく智證作の長二尺一寸の多聞天を置く。他に熊野社、天満宮、稲荷、疱瘡神あり。

・観音堂

文化元年(1804)、方形造、方三間堂。柱間は桁行中央間 8.5 尺、両脇間 7.7 尺、梁行は 7.7 尺。前側一間を外陣、後側二間を内陣とする。柱は向拝柱以外は全て丸柱。組物は禅宗様の尾棰と拳鼻を持つ二手先。板支輪は水に紅葉の浮彫。中備は蟇股。前面両端の側柱には 45 度方向に唐獅子の木鼻を付ける。外陣廻りの組物は平三斗。内外陣境の上部は板欄間、中央が迦陵頻伽、両側が唐獅子牡丹。内陣廻りの組物は出三斗。向拝の木鼻は側面が獏、正面が唐獅子。

棟札

「奉再建立千手観世音御堂一宇諸願成就祈所」「于時文化元甲子天　十一月吉祥日」「棚沢村大工棟梁橘川冨次良儀房　同州半原村　脇中嶋小平次　棚沢村和田儀兵衛　当所落合七左衛門　同井上勘衛門　同石井七良左衛門　同杣佐藤与兵衛　同木挽曽根次兵衛」

棚沢村大工棟梁橘川富次郎は、棚沢の橘川匠家の初代。寛政 10 年（1798）の相原八幡宮本殿、棟札「半原村大工棟梁柳川右兵衛安則　助工橘川富次郎　中嶋市兵衛」に見える。また、脇の中嶋小平治は、橘川匠家の脇棟梁として活躍した市兵衛と同家とみられ、文政 9 年（1826）「大工仲間議定書之事」半原大工仲間（半原八木家所蔵）の連名にその名がみえる。・厨子

入母屋造妻入の禅宗様厨子。正面一間、側面二間。軒は平行棰の二軒繁棰、組物は二本の尾棰と拳鼻を持つ禅宗様三手先。正面の扉は桟唐戸、柱と方立の間は波に花の透彫。

・須弥壇

「永正十七年」(1520)の墨書

・宝篋印塔　観音堂前の墓地に室町期の宝篋印塔、五輪塔がある。そのうちの一基の基礎に康永 2 年（1343）の銘がある。銘は「右為養子　父七　　」「康永二　三月日𝐈𝐈」。塔身には胎蔵界四仏の種子を刻む。

・相模三十三番札所の二十七番石碑

塔身

正面　当国二十七番三田寺

右側面　足利尊氏公古廟所

左側面　開山智證大師御作　千手観世音菩薩

広徳寺　法運書

裏面　嘉永四辛亥歳四月吉日　東宝山聖眼寺

法印長宥代

台石に寄付者などの連名がある。江戸・厚木の商人、江戸の豊竹村予太夫、三田・上三田・棚沢・及川・半縄・坂本のひとの名もある。

・地蔵菩薩塔

塔身

正面　地蔵大菩薩

右側面　釈迦文仏遺付嘱　地獄無間代請受苦
地蔵大菩薩経曰　餓鬼飢渇皆飽満
出現悪世入禅定　畜生皮毛速解脱

左側面　修羅調伏我慢幢　天上遠離五衰難
一称一禮勝功徳
人間済度生死海　今世後世大安楽

広徳寺
法運書𝐈𝐈

裏面　嘉永四辛亥歳九月中旬観音院□□代

基礎に寄附連名と台石に煤ケ谷石工名がある。

・徳本念仏碑

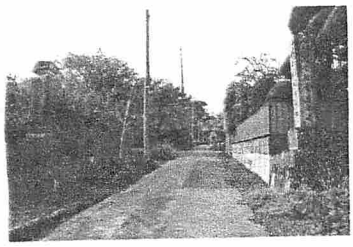
形態　自然石

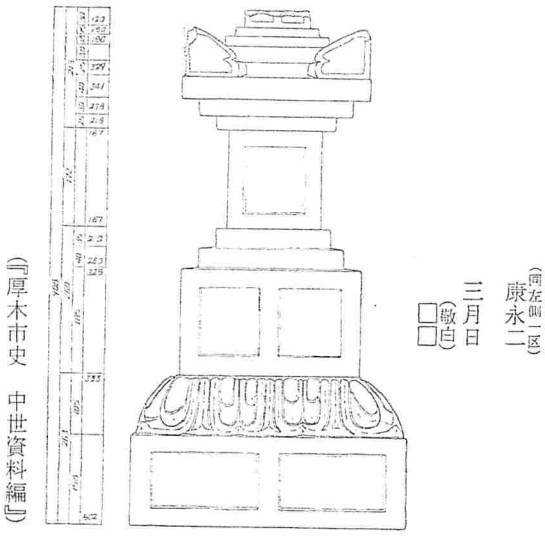
正面　　文化十五戊寅□

南無阿弥陀仏　徳本

五月吉日

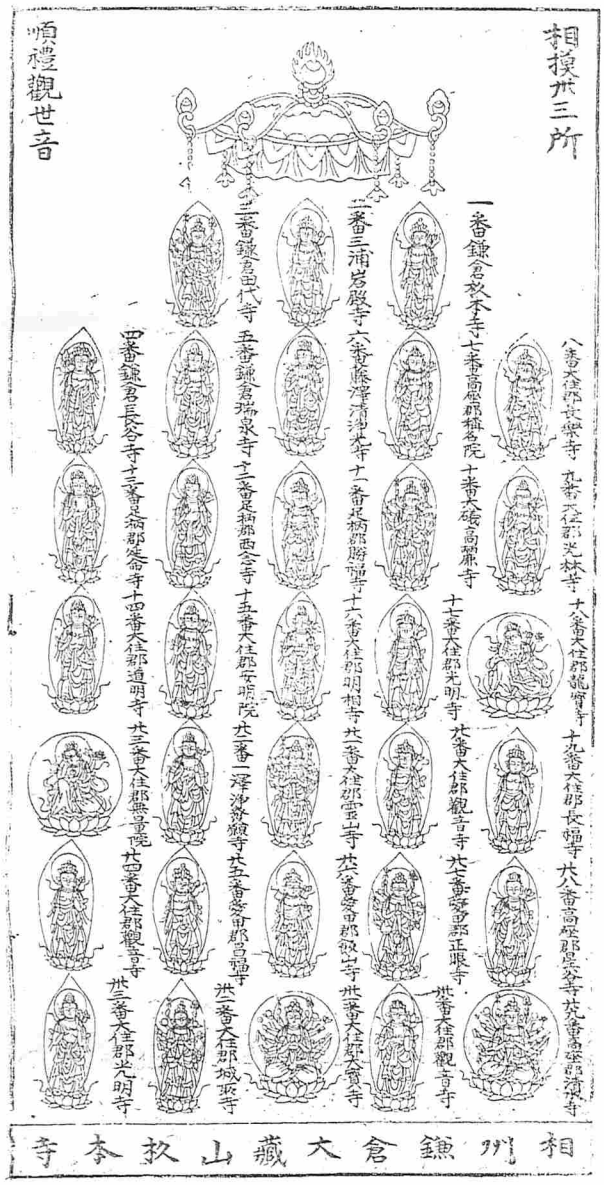
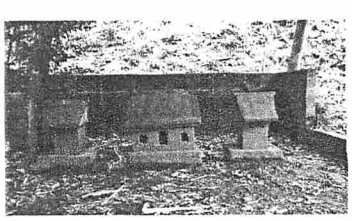
徳本は宝暦 8 年(1758)紀州生まれ、文政元年(1818)没。文化 11 年(1814)頃、芝増上寺の招きで東国へ。文化 14 年(1817)11 月 19 日、八王子大善寺から橋本、当麻（無量光寺）、国分、妻田と巡行。厚木市内には他に金田建徳寺、上依知瑠璃光寺、反田西福寺にあり。相模原には 14 基。





『厚木市史　中世資料編』

胎蔵五仏

（北）天鼓雷音 ア（ク）　（東）宝幢 ア（ー）ク　（南）開敷華王 ア（ー）

（西）無量乃 ア（ン）　（中）大日 ア